



20年の時を経て柳ヶ瀬に盆踊り復活

◆主催：ぎふ柳ヶ瀬夏まつり実行委員会

8月10日、20年ぶりに柳ヶ瀬に盆踊りが復活します。盆踊りを含めたイベント「ぎふ柳ヶ瀬夏まつり」について、実行委員で岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会の岡田副理事長にお話を伺いました。

■昼だけでなく、夜の柳ヶ瀬も

これまで柳ヶ瀬商店街では、「ゆかたで柳ヶ瀬まちあるき」や「氷の彫刻展」など、夏のイベントを単発で開催してきました。「ゆかたで一」は約15年続くイベントです。装賀きもの学院が中心になり、ゆかたのレンタルや無料着付け、スタンプラリー、ゆかたショーなどを実施しています。



▲今回のイベントのチラシ

「氷の彫刻展」も毎年、風物詩として親しまれているイベントです。商店街のアーケードにおよそ20の氷柱を並べ、料理人や菓子職人が見事な彫刻を作り上げます。職人技に見入ったり、氷の彫刻をスマホ等で写真に撮ったりと、思い思いに来場者が楽しんで

います。これらのイベントに柳ヶ瀬夜市や盆踊りを加えて、1日で楽しめるようにしたのが「ぎふ柳ヶ瀬夏まつり」というわけです。

20年前、柳ヶ瀬商店街では盆踊りを取りやめました。理由は、「夜、営業している商店がないのに、わざわざ開催する必要があるのか」という声の主催者の間で高まったためだそうです。

しかし岡田さんは、**商店街と盆踊りは非常に相性**がいい、と言います。

「夜、イベントを開催することによって、昼だけではなく、夜の柳ヶ瀬の魅力を引き出すことができると思うのです」

「二、三年前から企画を温めてきて、今年、実現することができました」

岡田さんが例として挙げたのが、昨夏、ロイヤル劇場ビル周辺で開催した「柳ヶ瀬ロイヤル夏まつり」です。当日は飲食以外にもアクセサリを扱う屋台も出店しました。開催時間が午後5時から9時までという遅い時間帯だったにもかかわらず、大勢の来場者がありました。

「柳ヶ瀬ロイヤル夏まつりには、特に若い年齢層の方に来ていただきました。盆踊りならば屋台も出ますし、ファミリー層にも来ていただきやすいと考えています」

■盆踊りコンテスト参加者募集！

盆踊りの復活に伴って、当日は午後7時から盆踊りコンテストを開きます。二人以上の団体が舞台で「春駒」を踊り、優秀な団体を表彰するというものです（全員に参加賞もあります）。取材当日（6月28日）現在、5団体・70人のエ

ントリーがありました。コンテスト当日まで出場を受け付けていますが、参加者多数の場合は選考になります。

また、コンテストに出場したいが、「春駒」の踊り方に不安があるという方のために、7月25日午後7時から8時ごろまで、岐阜商工会議所2階で盆踊りの事前練習を受けることができます（無料、遅刻・早退可）。コンテストのエントリーの際に参加することを伝える必要があります。

エントリーの要項は下記のとおりです。

▼日時：8月10日(土)午後7時から

▼場所：柳ヶ瀬あい愛ステーション付近

▼参加条件：2人以上の団体(年齢・性別不問)

▼エントリー方法：①団体名、②代表者名、③連絡先、④事前練習の参加・不参加、⑤何か一言(任意)をお知らせ

▼応募先：岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会(電話058-262-6261)

※「岐阜県商店街だより」では、事後にイベントの様子を取り上げるだけではなく、本記事のように事前の告知も致します。ご希望される場合は、県商連までご連絡ください(イベント開催日の2か月前までにお知らせください)。

お化け屋敷の主役、口裂け女オーディション

◆主催：「やながもん」柳ヶ瀬お化け屋敷製作委員会

柳ヶ瀬商店街の夏の風物詩、お化け屋敷「恐怖の細道」が今年、3年ぶりに帰ってきます。それに合わせて、主役の口裂け女役を選定する第4回「口裂け女オーディション」を6月23日、柳ヶ瀬商店街の一角の「ぎふ葵劇場」で開催しました。

■お化け屋敷の復活まで

「ねえ、わたし、きれい？」

夕方、道でマスクをした女性に話しかけられて、子どもは「はい」と返事をする。

「これでも？」

マスクを外すと、女性の口は耳まで裂けていた——というのが「口裂け女」の都市伝説です。

1979年ごろに岐阜県で発祥したといわれます。

柳ヶ瀬商店街のにぎわいを取り戻すため、お化け屋敷を初めて開催したのは、2012年でした。岐阜にゆかりのある「口裂け女」を主役に据えたお化け屋敷は大好評を博し、マスコミ報道でも取り上げられるほどでした。以来、2016年まで開催し、毎年1万4500人～2

万2000人の来場者を迎えてきました(2014年のみ開催せず)。

しかし、2017年、2018年は開催場所の確保等の問題により、お化け屋敷は開催することができませんでした。今年、新たに「岐阜発！！アミューズメントの地産地消」というコンセプトで復活することになりました。

■将来の口裂け女は？

オーディションでは、全7名の女性が劇場の舞台で自己PRを表現しました。主催者によると、当初は応募者が少なかったため、オーディションを開催できるかどうか危ぶまれていましたが、最終的には多数の出演になったといえます。

出演したある方は、長い髪の毛で顔をわざと隠し、更に司会者の質問に対しても口数少なく応答することによって、口裂け女の不気味さを演出していました。別の女性は、動画投稿サイトで「口裂け女の歌」を研究したうえでオーディションに臨んでいました。



▲白い服に長い髪で雰囲気を出す応募女性

自身の得意分野をアピールする方もいました。ダンスを習っているという女性は、「日常ではありえない関節の動きができる」と、首が少しずつ落ちるように見える動きを披露しました。後で審査員が「もう一度見せてほしい」と言うほどでした。

7名のPRが終了した後は、先輩の口裂け女3名が登場し、観客を喜ばせました。お化け屋敷の前売り券も販売し、購入者と記念撮影にも応じていました。購入者の中には、前回、100回も来場したというお化け屋敷の大ファンの方もいました。

審査の結果、グランプリ、準グランプリが決定し、先輩口裂け女から肩にコートが掛けられました。今回の応募者はレベルが高く、選定に時間がかかった、といいます。授賞式の後には、審査員で「恐怖の細道」プロデューサーの山口敏太郎さんによる講評がありました。

「人はそれぞれマイナスの部分、つまり『口裂け女』の部分を中心に持っています。グランプリを受賞した方は、20代なりのマイナスを背負って、自分なりの口裂け女を演じてください。グランプリに選ばれなかった人も、自分なりのプランを考えてほしいと思います」



▲先輩口裂け女による歌唱

「やながもん」代表、吉村輝昭さんによって7名全員合格が発表され、オーディションは終了しました。その後には同会場で、歌手・美川憲一さんのデビュー55周年を記念したトークショーも開催しました。

「岐阜柳ヶ瀬お化け屋敷『恐怖の細道』～消えた子どもたち～」は、7月20日から9月23日まで、岐阜市徹明通1丁目のドン・キホーテ柳ヶ瀬店ビル7階で開催します。入場料は大人700円、高校生500円、子ども300円（3歳以下無料）です。

今年のテーマはキャッシュレス 関でご当地グルメ大会

◆主催：関商工会議所 共催：関市本町通商店街連合会など

6月16日、関市本町通では「ご当地グルメ大会2019」を開催しました。関市の地場産業である刃物のPRと、地域の名物料理によるまちおこしを目的に、2011年から毎年開催しています。今年はグルメ32ブース、刃物販売市4ブースの合計36ブースが並びました。

■ご当地グルメに目移り

「やっぱり食のイベントは強いですねえ。お客さまがたくさん来てくれます」

と言うのは、ご当地グルメ大会実行委員長で、関市本町通商店街連合会会長の深川さんです。

当日はJR東海の「さわやかウォーキング」も実施され、市外からのウォーキングウェアの来場者も多く見かけました。



▲本町通を埋める来場者

市外からの来場はお客さまだけではなく、出店者も、関市内の事業者だけではなく、近隣の可児・美濃・美濃加茂・各務原の各市、そして関市の姉妹都市の富山県氷見市から来ていました。

市外出店者の中で特に人気があったのが、可児市の出店者さんの五平餅です。可児市が一説に明智光秀の生誕地と伝えられることにちなんで「明智光秀五平餅」と名付けました。五平餅を焼く香ばしい煙がブースの外に流れ出て、行列を作るお客さまの食欲を更に増しているようでした。

関市の出店者も負けていません。「関のむ牛乳カレー」は、関牛乳さんの牛乳と十三秀刃物製作所さんの蜂蜜を使って、中華料理店しょうりゅう（郡上市）のご主人が調理しました。販売前からテレビや新聞等でも取り上げられ、用意した400本がわずか2時間半で完売しました。

「以前、開催時間は午前10時から午後5時まででした。ただ、どこのお店も早く売り切れてしまい、夕方には閑散としてしまいました。ですので、現在は午後3時までになっています。これぐらいがちょうど良いようです」

グルメと並ぶ柱である刃物については、廉売市のほかに「ミニはもけん（刃物検定）」を実施しました。来場者にクイズに答えてもらうことによって、刃物に関する知識を楽しく得てもらおう企画です。わたしも挑戦したところ、4問中3問正解で、1問不正解でした。

■キャッシュレス推進

ご当地グルメ大会では、東日本大震災復興支援、熊本地震復興支援など、毎年テーマを決めて実施しています。今年は「キャッシュレス推進事業」と銘打って、キャッシュレスの推進・普及をテーマに実施しました。

具体的には、一部のブースでスマホ決済「PayPay」を利用して支払いができるようにしました。多くのスマホ決済の中でPayPayを採用したのは、①当日、運営会社によるバックアップを得ることができた、②利用者（来場者）が登録後、すぐに500ポイントを利用できるためご当地グルメ大会の価格と相性が良い、といった理由によります。

当日は利用可能ブースの前には「PayPayつかえます」というタペストリーを張り出し、レジ横にQRコードのパネルを設置しました。当初は導入を予定していなかったブースでも、当日に対応できるようにしたところもありました。詳細な利用件数・金額は不明ですが、多くの利用があったといえます。



▲PayPayのマークとタペストリーを掲出

一方で、利用しない選択をした出店者もありました。事業者にも事情があると、深川さんは言います。

「どうしても、年齢層の高い事業者はスマホで決済することに消極的になるようです。また、このようなイベントならばスマホで決済するお客さまと遭遇することもあるでしょうが、日常の常連客にスマホ決済するような人がいないと、対応する気にはならないようです」

上げに伴った消費者還元事業として、キャッシュレスで支払った消費者にはポイントが還元されます。中小事業者にも端末の導入費用や決済手数料などの補助がありますが、導入のメリットを感じられない事業者もあるようです。

キャッシュレスの推進を図るうえで、事業者にもメリットを感じてもらおうのが鍵のようです。

今年10月から来年6月まで、消費税率引き

【取材・記事 中小企業診断士 山田圭介】

■第1回全国商店街青年部指導者研修会のご報告

全国商店街振興組合連合会主催の当事業は、商店街活性化に資する青年部活動の役割と必要な知識を修得させることを目的としています。

下記の記事は、研修に参加しました岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会の林亨一理事長の感想を掲載しております。

事業の日時、会場及び当連合会からの出席者は以下の通りです。

日 時：令和元年7月2日（火） 13：30～17：30
令和元年7月3日（水） 9：30～10：30

会 場：アオーレ長岡 市民交流ホール

出席者：岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会 理事長 林 亨一 氏
柳ヶ瀬通3丁目商店街振興組合 理事 平田 英樹 氏
高山市商店街振興組合連合会 副理事長 長尾 和哉 氏



令和元年度第1回全国商店街青年部指導者研修会で、新潟の沼垂テラス商店街の事例、新潟で商店街をプロモートする芸能プロダクション会社ナマラエンターテイメントの事例、プロバスケボールで地域活性化を担う新潟アルビレックスBBの事例、黒塀プロジェクトでまちづくりを進める村上市の事例を学ぶことができました。

沼垂テラス商店街は、前身が沼垂市場で組合が管理する小さな「市(いち)」が立ち並ぶ、文字通りの市場として栄えていました。平成の時代に入り、時代の趨勢により徐々に衰退傾向に向かい、数店舗を残したシャッター通りとなりました。これをリノベーション(用途転用)して若い店主と若いお客さんが集う商店街に作り変えたのが沼垂テラス商店街です。まち会社を設立して市場組合の持っていた区画をまるごと買い取るなど、勇気の必要な事業をやりきった胆力が印象的でした。

新潟のお笑い集団NAMARAは、地域の課題解決を「面白くなればいいな」と引き受けていく、地域社会の潤滑油のような団体です。地域活性化と一括りに言っても解決されるべき課題は多岐にわたっていて、地産地消啓発活動・観光プロモーションなどの商業ベースのモノから、不登校いじめ問題・貧困フードバンク等の福祉課題までをユーモラスにスマートに、現代の流儀に合わせて切り分けて、商店街組織では対応が難しい地域課題を採算ベースにのるカタチに

導いていきます。この様に商店街以外の地元に着目した団体との連携が上手くいくと、頼もしい相方となるという典型的な事例であると思いました。

新潟アルビレックスBBは、サッカーで有名な新潟アルビレックスのバスケットボール部門のプロスポーツチームとして新潟に誕生しました。本拠地を長岡に移し長岡市のシンボリック存在として運営されています。プロスポーツと地域活性化は、私どもの地元の岐阜市でも取り組んでおりますが、市庁舎の敷地内に5,000人収容のBリーグ規格適応したスタジアムを建設するなど、行政と民間の連携が成功のためには何よりも大切と感じました。

新潟県村上市の地域活性化の成功事例として、黒塚プロジェクトで村上市を再生させた国土交通省選定観光カリスマの吉川氏の講義を受けました。城下町村上の魅力を消さないために、無機質な再開発プロジェクトに異を唱え、市民の力で昔ながらの城下町の黒塚にまちの景観を戻していく活動を行い、その活動を広げていき黒塚のまちとしての認知を高めて、観光・インバウンド客にも対応できるまちを作り上げた経験をお話いただきました。

吉川氏の活動は民間ベースで進められています。最初は黒塚と言っても理解を得られずに孤軍奮闘なされた様ですが、今では市民がスポンサーになって会費というカタチで資金を集めて、活動を続けられるようになってきました。ひとりで始めた活動でも、時間をかけて粘り強く続けていくことで成功へ繋げていくことができる、諦めない心がが何よりも肝要なのだと感銘を受けました。

今回の研修では、商店街活性化と一口に言っても切り口はいろいろあり、多面的な見方で現実を捉え、地域に存在する「使える何か」を見つけ出しうまく活用していく事が大切であり、もう一点、それを現実に成果をあげるまでには粘り強く諦めず、ものごとに向き合ってゆく「覚悟」が必要なのだと気づきを得ました。地元商店街でもこの学びを活かし、ますますの地域活性化に向かっていきたいと思えます。



■市川博一理事長が全振連理事長表彰を受賞

6月20日に開催された全国商店街振興組合連合会の第51回通常総会において、柳ヶ瀬通3丁目商店街振興組合の市川博一理事長が全振連理事長表彰を受賞されました。

市川博一理事長は、柳ヶ瀬通3丁目商店街振興組合理事長、岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会顧問などとして、安心安全な商店街の振興に寄与するとともに、中心市街地の活性化に貢献したことが功績として評価されました。



岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。